

十 信仰の島・天草で南蛮文化が花開く



天草五人衆から小西行長へ。
キリスト教とともにもたらされた多彩な文化

- 天草** キリスト教が天草の地に根付き、多くの文化や風習をもたらす
- 日本** 安土桃山時代、豊臣秀吉による天下統一
- 世界** スペインを筆頭とするヨーロッパ諸国のアジアへの侵略

アルメイダと天草五人衆

「天草五人衆」によって統治されていた天草の地。志岐氏に次いで、1569年に天草氏もアルメイダを河内浦へ招きます。こうして天草五人衆は次々に改宗し、最盛期には島民の8割がキリシタンとなりました。

「宗教会議(宣教師会議)」の開催地となったほか、南蛮美術学校「画学舎」が開かれるなど、キリシタン文化の中心となった天草。しかし、志岐氏は南蛮貿易による利益が本来の目的だったため、南蛮船が入港できる港の不足など、さまざまな要因でうまくいかないことがわかると途端に棄教。

「宗教会議(宣教師会議)」の開催地となったほか、南蛮美術学校「画学舎」が開かれるなど、キリシタン文化の中心となった天草。しかし、志岐氏は南蛮貿易による利益が本来の目的だったため、南蛮船が入港できる港の不足など、さまざまな要因でうまくいかないことがわかると途端に棄教。

一転してキリシタン迫害を行うようになりました。

勢力を増すキリシタン 豊臣秀吉の伴天連追放令

1600年頃、全国のキリシタンは30万人にもものぼるほどになっていました。ところがキリスト教を保護していた織田信長が、「本能寺の変」により没信長亡き世を継いだのが豊臣秀吉です。

当初、信長同様キリスト教に理解を示していた秀吉でしたが、キリスト教徒たちが神社仏閣を破壊している現状などから、宣教師たちに不信感を抱き、1587年に「伴天連追放令」を發布。当時、キリスト

肥後と天草の統治の変遷

一時、佐々成政の領地となった肥後ですが、その後北部を加藤清正が、南肥後と天草をキリシタン大名でもある小西行長が治めることになりました。

その後、天草五人衆と小西行長との間に戦いが勃発

し、1590年に小西・加藤軍の勝利によって天草五人衆の統治は終わりを告げました。ところが、1600年の関ヶ原の戦いで豊臣方として出兵した小西行長は京都で斬首されてしまいました。これをうけて、唐津藩主の寺沢広高が天草の新たな領主となりました。

信心具の国産化

宣教師たちは日本人に布教していくにあたって、信仰の道具として、多くの信心具を与えていきました。しかし、キリシタンの数が増えていくにしたがって、その数は不足していききます。そこで、メダイ(メダリオン)やロザリオなどを日本国内で製作するようにしました。

信心具の国産化は、日本におけるキリスト教の繁栄を意味するものでした。

サンフェリエペ号事件と日本二十六聖人の殉教

秀吉の伴天連追放令から9年後。マニラからメキシコを目指して航海していたスペイン船「サン・フェリエペ号」が台風被害によって土佐の浦戸湾で座礁する出来事がありました。秀吉は増田長盛を派遣し、船の積荷を押収するとともに乗組員を拘束したのです。

それに怒った船員は、数々の国を植民地化して国を大きくしたスペイン国王を引き合いに出し、長盛にこう毒ついたといっています。

「まず宣教師を送って住民を懐柔し、しかるのちに軍隊を送るのだ」。

報告を受けた秀吉は激怒し、再び禁教令を発令。石田三成に

キリシタンの取り締まりを命じたのです。三成は、大坂や京都などで宣教師や日本人信者などを含む26人のキリシタンを逮捕。秀吉は彼らを長崎の「西坂の丘」へ移送し、見せしめとして磔刑に処しました。

1597年2月の「日本二十六聖人の殉教」です。



ロザリオとつぼ
メダイ(メダリオン)
(天草市立天草キリシタン館所蔵) ※天草市指定文化財

天草で南蛮文化が
花開く

南蛮船はキリスト教だけでなく、多くの文化や風習をもたらしました。パンやカステラ、ボーロ、カルメラ、サラサ、カッパなどは南蛮文化の名残を感じさせるものです。その中でも、宣教師がもたらした南蛮柿（イチジク）は、日本で初めて天草に入ってきたと言われています。

「コレジヨ（大神学校）」が天草に開かれた時期もありました。1591年に島原から天草へ移設された「天草コレジヨ」は、河内浦にあったとされています。

九州各地から英才たちが宣教師になるため集い、ラテン語やポルトガル語、哲学、倫理学、文学、音楽のほか、「地球が球体である」ということも教えられていました。

天草に大学が！
天草コレジヨ
日本人宣教師養成のための施設として、各地に「セミナリヨ（神学校）」「ノビシアド（修練院）」が誕生。宣教師育成のための高等教育機関



天草コレジヨ跡公園
(天草市河浦町河浦5253)

天正遣欧少年使節

1582年、宣教師とともに渡欧した「天正遣欧少年使節」に九州の少年たちがいました。伊東マンシヨ、千々石ミゲル、原マルチノ、中浦ジュリアンの4人です。彼らはスペインでは国王と、イタリアではキリスト教で最も地位の高いローマ教皇と会いました。ヨー



ロッパの文化に触れ、キリスト教への信仰を深めた少年たちは8年後、帰国。しかしこの時、日本では「伴天連追放令」が出されていきました。迫害と弾圧のなか、病死した者や棄教した者、日本を流放された者、布教活動の末に処刑された者、それぞれの苦難を歩んだのです。

天正遣欧少年使節が
持ち帰ったもの

彼らが持ち帰ったもののひとつがグーテンベルク印刷機です。文学書のほか、日本語・ラテン語・ポルトガル語の対訳辞書といった活字印刷物が印刷されました。「天草本」と呼ばれたこれらの書物は、外国人宣教師が日本語や日本の歴史を学ぶ際にも使われました。

天草本
(天草市立天草コレジヨ館所蔵)

活版印刷による日本最古のローマ字本など、多くの書物が印刷されました。「平家物語」「伊曾保物語」などはその代表作です。その中でも「伊曾保物語」は、西洋文学を日本語に直した日本初の本として、文体や語法、語彙、発音など国語史・国語学研究の上でも貴重な資料となっています。



▲伊曾保物語



▲平家物語



グーテンベルグ印刷機
(天草市立天草コレジヨ館所蔵)

日本文化に多大な影響を与えた活版印刷機の登場で、本が大量生産できるようになりました。同時に、日本人印刷工の技術養成が行われ、仮名と漢字による金属活字の製作も行われました。



▲ヴァージナル

西洋楽器
(天草市立天草コレジヨ館所蔵)

ルネサンス・リコーダーやハーブ、ヴァージナルなど、使節団が持ち帰った南蛮渡来の古楽器。1590年に帰国した4少年は翌年、京都・聚楽第において豊臣秀吉を前に、持ち帰った楽器でジョスカン・デ・プレの曲を演奏。秀吉は大いに喜んだそうです。



天草コレジヨ館

天草本やグーテンベルグ印刷機、西洋楽器など、天草の南蛮文化にまつわる展示多数。

住 天草市河浦町白木河内175-13

☎ 0969-76-0388

営 8:30~17:00(最終入館16:30) 休 12/30~1/1

料 大人200円、高校生150円、小・中学生100円



天草キリシタン館
(南蛮文化の伝来コーナー)

天草のキリシタン史や南蛮文化の伝来などを4つのゾーンにわけて展示・解説しています。

住 天草市船之尾町19-52(殉教公園内)

☎ 0969-22-3845

営 8:30~18:00(最終入館17:30) 休 12/30~1/1

料 大人300円、高校生200円、小・中学生150円



▲竹のバイブオルガン